

TAIWANESE YOUNG PEOPLE'S HATTA YOICHI RECOGNITION
-From the questionnaire result of the National United University-

Genjiro TAKENAGA: Kisarazu National College of Technology

Abstract: We conducted a questionnaire survey regarding recognition of Yoichi Hatta at the National United University in Taiwan. As often said, the result proved his high profile. On the other hand, his wife, Toyoki is not as highly recognized as Hatta but known to some extent. Students knew about the construction of Chianan Irrigation and Wushantou Reservoir and generally had a favorable impression of him. Yet, only a small number of students knew about Hatta more than these facts. They don't associate Hatta's achievements with the Japanese colonial administration.

Key Words: Hatta Yoichi, Hatta Toyoki, Chianan Irrigation, Celebrity, Respect to Hatta

1. はじめに

八田與一（1886-1942）は日本の植民地であった台湾において、嘉南大圳の建設（1920-1930）という大きな業績を上げた技術者である。八田は工事期間の大部分、嘉南大圳の主要部分である烏山頭ダム建設を指揮する、烏山頭出張所長であった。台湾では八田の知名度が高く、非常に尊敬された存在であることを強調し、それを日本では多くの人が八田を知らないことと対比する言説もしばしば見かける^{1,2)}。

だが「台湾で八田が高く評価されている」ということは、データや調査の結果に基づいて議論されているわけではなく、論拠が不十分であることは否定できない。この論稿の目的は、八田與一について台湾の人々が実際にどう思っているか、アンケートに基づいて一定程度明らかにすることである。

台湾において八田に関するアンケートを実施した例は過去にあるが、以下述べるように不十分である。

産経新聞編集部による、様々な立場や状況の中で活躍した日本人を紹介する著作『凜として』において八田與一が取り上げられている。彼に関する章の中、2002年に当時拓殖大学大学院に所属していた杉山美也子が、「八田與一の一般的イメージを知るために、台湾各地で約二百人を対象にアンケートをした」ことが記載されてい

る³⁾。調査した地域名、アンケート項目や対象年齢層などの記載はない。そして、「日本統治時代、（八田技師らは）人種を越えて、台湾に大きな貢献をしてくれた」と「個人の欲というものを捨てて、国籍をも捨てて、偉大な功績を成し遂げた」「この時代の日本人は台湾人のため、長期的な展望ですべてに公平に貢献した。気骨のある卓越した人材だった」という3つの回答例が示され、「回答にはもっぱら称賛が集まった。與一を知る人は若い世代に多く、杉山の予想を裏切って、『台湾から日本が搾取するため』といった回答はなかった」とある。杉山による調査結果は、『凜として』内の短い要約（全部で9行）でしか知ることが出来ず、論文等にまとまっていないのは惜しいことである。他に同様の試みを行った例もない。

アンケートは筆者が調査可能な国立聯合大学で実施した。大学という環境から調査対象の世代の偏りは免れず、さらに複数の大学や同世代の大学出身者でない人々に聞いていない今回の調査は台湾の大学生、もしくは台湾若者の意見としても不十分なものであることは自覚している。機会があればさらに別の調査をするなどしたい。だが、繰り返しになるが同様の調査がされていない現在、本稿が提示した調査結果は、台湾における八田與一認識を客観的に知る上で、意味のあることとと思っている。

2. アンケートを実施した国立聯合大学について

国立聯合大学は台湾中部の苗栗市に位置し、1972年に私立聯合工業技芸専科学校として出発し、組織再編成を経て2003年に国立聯合大学（以後、聯合大学）に改称した。経緯から工学系が多いが文科系学部も備えた総合大学である。学生数は約8,000人である。

筆者の勤務する木更津工業高等専門学校（以下、木更津高専）と2006年に学術交流協定を結び、教員・学生が互いに行き来している。2014年度には、6月から7月の3週間、聯合大学学生10名が来校し、研究室で研修を実施した。木更津高専からは、8月に2週間、5名の学生が、2015年3月に3週間、7名の学生を派遣し、中国語学習や研究室での実験実習を行った。研修の際は教員が引率することになる。筆者は2012年度から国際交流委員（2015年度から国際交流センター運営委員）であり、その間聯合大学と関わってきた。引率も数回経験している。

2015年3月の引率（研修期間は3月8日から28日まで、筆者の引率期間は12日から28日まで）を利用してアンケート調査を実施した。調査対象者は全員聯合大学学生である。

今回のアンケート調査では、聯合大学研發処（研究体制の整備・補助、国際交流、留学等担当）助手で、事務担当の陳欣舒氏に全面的な協力をいただいた。また聯合大学出身の陳彦竹君が2014年4月より1年間、専攻科進学準備を兼ね科目履修生として木更津高専に在学しており、（2015年4月より木更津高専専攻科機械電子工学専攻に進学）陳君に依頼し、筆者が日本語で作成した文面を中国語（台湾中国語）に訳してもらった。帰国後の翻訳も陳君にお願いした。台湾到着2日目の3月13日に、前もってお願いしていた通り、陳欣舒氏にアンケート用紙を500部渡し、陳欣舒氏から聯合大学の教員に依頼してもらった。アンケートの具体的な実施日、時間等はわからない。アンケート用紙を陳欣舒氏から返却されたのは、帰国前日の3月27日であった。319部を回収したので、回収率は63.8%である。

聯合大学は、學院（学部に対応）と學系（学科に対応）に分かれる。學系と男女、記名欄を設け、學系と男女は必ず明らかにして欲しいが、記名は自由であるとアンケート用紙に記載した。ごく一部を除いて注意を守ってくれた。記名をした人は少数であった。

回答者の内訳は、電機資訊學院125（電機工程學系81、資訊工程學系38、光電工程學系6）、理工學院35（機械工程學系12・化学工程學系19・土木與防災工程學系4）、管理學院120（經營管理學系99、財務金融學系21）、人文與社會學院37（華語文學系36、臺灣語文與傳播學系1）、客家研究學院2（文化產業觀光學系2）であった。学年別は、1年 90 2年 15 3年 141 4年 68 不明（記載なし）5であった。男女別は、男201 女115 不明（記載なし）3であった。学部や学科に偏りがあるが、これは未回収数と関係しているかもしれない。学年では3年が多く、2年が少ないがこの理由も不明である。男子が約6割と多いのは、男子比率の高い工学関係（聯合大学では9割）の学生が多いからだろうか。年齢を書く欄は設けず、これについて正確には分からないが、ほぼ全員が10代後半から20代前半だと思ってよい。聯合大学学生の回答には、学部や学年、男女による違いは見いだせなかった。

3. アンケートの内容

設問は以下の6つである。

設問1 八田與一を知っているか

設問2 八田與一の妻外代樹を知っているか

設問3 八田與一と外代樹の死亡年を知っているか

設問4 映画『KANO』を見たことがあるか？

設問5 『KANO』を見た人は、5点満点で採点してほしい

設問6 八田與一と八田外代樹について、知っていること、思っていることを自由に記述してほしい

なお、設問2、3、4、5については以下の目的で質問した。

設問2は八田外代樹についてである。烏山頭

ダム的一角にある八田記念公園に外代樹の銅像が2013年9月に建てられたこと、また、八田の活動を支えた妻外代樹は、現在八田を語る際に欠かせない存在であることから、八田外代樹について尋ねた^{4,5)}。

設問3は、彼らを詳しく知っているかどうかの判断材料になるかと思い、八田夫婦の死んだ年（興一は1942年5月8日、乗船がアメリカの潜水艦に撃沈され殉職、外代樹は1945年9月1日、烏山頭ダムで投身自殺）を知っているかどうか尋ねた。

設問4および5は、2013年台湾公開（翌年日本公開）の映画『KANO』についてである。1931年（昭和6年）に嘉義農林学校野球部が甲子園野球大会で準優勝した史実に基づく。大沢たかお扮する八田興一が野球部メンバーと交流・激励する（史実ではない）シーンがあり、嘉南大圳建設に尽力する八田の姿が印象深く描かれている。学生がどの程度この映画を見たか、さらに学生が映画で描写された八田について抱いた感想を得ることも期待した。

4. アンケートの結果・設問1～5

八田興一を知っているかどうかは、知っているという回答が273人、知らないという回答が46人であり、表1にあるように、知っている割合は85.6%である。やはり知名度は相当高く、「台湾では誰もが八田興一を知っている」と言われるだけのことはあると言えよう。ただし、全ての人が彼を知っている、というほどではなく一定数知らない人がいることも見逃せない。

八田興一の妻外代樹を知っているかという設問に対する数字は、興一とは全く逆である。知っているという回答が50人、知らないという回答が267人であり、表2にあるように、知っている割合は15.8%である。彼女を知らない割合が85%近くとかなり高い。これは興一を知っている割合とほぼ同じである。

設問3の八田夫婦の死について、興一の死亡年1942年を答えたのは12人、正解に近いと言える1941年としたのが3人（他に193×年、1945年が1人ずつ）であり、外代樹について正解の

表1 八田興一の認識度

知っている	273	85.6%
知らない	46	14.4%
計	319	100%

表2 八田外代樹の認識度

知っている	50	15.7%
知らない	267	83.7%
空欄	2	0.6%
計	319	100%

1945年は8人だけである。いずれも正解率はあまり高くはない。

設問4の映画『KANO』を見たことがあるか、に対しては、あるという回答が117でそれに対し、ないは199であり、見た割合は37.0%と、かなり高い。また設問5の映画評価は平均約4.39点と、高得点である。中学生が野球で練習を積んだ末に大舞台で活躍するという、若者が好みそうな映画ということもあって、かなり人気も評価も高いといえよう。

ただし、自由記述欄にKANOと八田について書いたのは「KANOの登場人物で、小学校の教科書にある、嘉南のダムに関する人物」という一つだけである。映画中で台湾人の生活向上に努力する姿が描写されている八田（この映画では制作を担当した魏聖徳の考えもあって、相当八田を好意的に描いた⁶⁾）が、視聴者から高い評価を受けた可能性はあるにせよ、ここではつきり提示できないのは残念である。

5. アンケートの結果・設問6

設問6の自由記述は、筆者が最も結果を期待したところである。319人中、127人から何らかの記述がえられた。八田興一について知っている、と答えた273人のうち自由記述欄を空欄にした人数が146人ということになるが、面倒なので知っていることを書かなかった、ということも考えられるが、恐らく大半は八田の名前だけは聞き覚えがある、ということと思われる。

字数は大体内容に比例した。短いもので興味

深い答えは少数であり、長いものは一定の内容が伴っていた。表3にあるように、字数は10字以内が最も多く、20字以内を合わせると91人である。

表3 自由記述の字数

60字以上	5
51-60字	6
41-50字	2
31-40字	6
21-30字	18
11-20字	36
10字以内	55
計	127

短いものでは、「ダムを建設した」（原文は建水庫）「水圳を建造した」（原文は水圳興建）など、水路建設のことを手短かに記したものが多。少し長くなると「私は、八田與一が嘉南大圳の主要な建設者であることを知っている」、（原文は八田與一 我知道是嘉南大圳的主要建設者）などといったものである。

このアンケートへの回答中で水庫や水圳等のことを記載している答えは、表4にあるように、記述数127のうち実に113と、9割近くにのぼる。そのうち嘉南大圳や烏山頭ダムについて明記しているのはおよそ半数の58である。八田が水利事業に関わったことを認識している答えが多く、それと嘉南大圳を結び付けている答えが相当数ある、ということである。日本にも紹介されたことがあるが、台湾の歴史教科書には八田による嘉南大圳建設が記載されている⁷⁾ため、それを記憶していた回答者が多かったのであろう。水利関連を20字以内で比較的簡潔に述べた答えが69と、全体の半分を超えて、回答の中で最も目立った。

八田に対する何らかの評価を示す言葉もいくつかあった。「有り難う」（謝謝）、「感謝すべきである」（由衷的敬畏□感謝 一字不明）「台湾への貢献に感謝する」（感謝他對台的貢獻）「な

んだかとっても素晴らしい」（但感覺好像很厲害）「歴史上、一番重要な偉人であり、（台湾に）非常に貢献した」（但知道是歷史上一位□重要的偉人、做了很不凡的貢獻 一字不明）、「八田はすごい」（八田與一、很厲害）「すごい」（很厲害）という答えであった。感謝の言葉、台湾への貢献の大きさを称える言葉が並ぶ。ただ很厲害という言葉は「非常に」という意味であり、良い悪いかは文脈で判断する。悪い方の意味と取れないことはないが、良い意味で使った可能性が高い。このように、八田に対して否定的な答えは皆無と言ってよい。

表4 自由記述中の水利関連

水利に関わるもの	113
上記中嘉南大圳関連の明記あるもの	58
水利に関わらないもの	14

水利について触れていない回答14のうち、多くが「八田のことを知らない」（我不知道）といった類いの答えである。一方でこの全員が、設問1では八田を知っていると答えているので、名前は聞いた覚えはあるが、何をしたかは知らないという意味ではないかと思われる。

短い記述が多い一方で、詳しい記述もあった（長いものは原文を省略する）。例えば、「子供の頃よく八田與一のことを聞いた。実家は台南にあるので、烏山頭ダムに対して特別な気持ちを持っている。それで、八田與一は代表的な人物である。八田は台湾に愛情があった。台湾に一生懸命生涯を捧げた偉人だ。嘉南一帯に活気を溢れさせてくれてありがとう」という答えは、回答者個人の気持ちだけでなく地域の状況をよく示している。台南は嘉南大圳がある地域だけに、八田に対する思い入れが他よりも強いということは良く聞くことである。この回答者には直接話を聞いてみたかったが、残念ながら無記名であった。

八田の嘉南大圳以外の業績について触れた記述があったことも見逃さない。例えば「素晴らしい人であり、台湾に貢献した。嘉南大圳と

烏山頭ダムの建造だけでなく、台北の水道、桃園大圳と日月潭発電所など色々やった。さらに、台湾水利協会を創設した」や「八田與一は嘉南大圳と烏山頭ダムの設計者である。さらに日月潭水力発電廠も設計した。台湾水利協会と学会誌の創設者である。台湾の水利と土木人材を養成した」などである。八田は台湾水利協会の設立（1937年）に尽力し、協会発行の雑誌『台湾の水利』に何本も論文を寄稿している。日月潭でのダム建設は、嘉南大圳に並ぶ日本統治時代の台湾での土木工事の代表である。この工事の後半、八田は台湾総督府内務局水利係長として何らかの関わりを持ったであろうが、具体的なことは分からない。重要な役割を担ったわけではないことははっきりしている。嘉南大圳以外の八田の活躍に触れているものは5つあるが、そのうち3つが日月潭に触れており、八田が関わったことがより確実な桃園大圳に触れているのは1つだけであった。台湾で有数の観光地、日月潭の名前と八田を結びつけようとする願望が、ごく一部にはあるのかもしれない。「私は烏山頭ダムと瑞芳高工を知っている。瑞芳高工について読んだことがあり、この学校には現在八田與一の名前をつけた建物がある」という回答があった。八田が中心となって1937年（昭和12年）に「土木技術測量員養成所」が台北の地に設立され、現在は改称されて「国立瑞芳高級工業職業学校」略して瑞芳高工になっている。筆者はアンケート実施以前、八田の名前をつけた建物があるとは知らなかったが、事実であると確認できた。功績から考えればありそうなことである。

外代樹について触れているものは少数で、わずかに7つであった。このことは、知名度があまり高くないことの反映であろう。ただ「相思相愛の夫婦であった」（他們夫妻很相愛）という微笑ましい答えをはじめ、いずれも夫婦愛について記述であった。残念ながら、あとの6つは陳君にも読みにくい字で書かれているため内容が分からない部分が多かった。辛うじて読み取ってくれたところから判読すると、そのうち1つは2009年に放映されたテレビドラマ「水色嘉

南」のことを書いていると思われる。これは嘉南大圳建設における與一と彼を支える外代樹の奮闘と悩みを描く20回シリーズである。回答者の中には他にもこの番組の視聴者はいたであろうけれど、言及したのはこの1人だけであった。

その他「外代樹は夫を思って烏山頭ダムに身を投げた。美しい愛情を示す物語である」「外代樹には美しい浪漫の話がある」「外代樹は情に殉じた」「八田與一が戦死した後、妻はダムに殉じた」といった言葉が並ぶ。外代樹が自殺した原因は、正確には不明である。外代樹の死を美しいと感じるのも自由であるが、筆者個人はそれに対しては複雑な気持ちにならざるを得ない。日本による台湾での水利システム整備を研究している清水美里が烏山頭ダムで、「外代樹が夫に殉死した」という説明を聞いて絶句したというが⁸⁾、台湾の若い世代も、夫への殉死という解釈から全く自由ではないのかもしれない。

6. アンケートにないこと

杉山美也子が実施したアンケートにはあったらしい日本人を高く評価する回答は、今回の調査からは見出せなかった。アンケート中、日本に言及したものは6つあったが、そのうち3つは「日本統治時代に水利施設を建設した」（日治時期蓋水圳）と、日治時期という言葉が出てきたためカウントしたものである。ただ、日隸時期、日據時期といった他の言葉に比べると、台湾が日本植民地であった時代を示す言葉の中で、日本を非難する意図が少ない場合に使う言葉なので、そこに日本を評価する意味を見出せるかもしれない。「彼らは日本人であった」（他們是日本人）は、これだけで終わっているのに単に八田夫婦の民族を述べたかったのか、他に言いたいことがあったのかは分からない。

このように、アンケートの回答からは、台湾の若者の中で八田と日本評価が強く結びついているという状況は浮かんでこない。台湾人にとっては「八田が日本人か台湾人かなどということはそれほどこだわるべき問題ではなく、『自分たちに恩恵を与えたか否か』という点こそが重要」という指摘は胎中千鶴の卓見であるが、そ

のことが想起される⁹⁾。

また、八田は台湾人を差別しなかったことが強調され、八田の評価が高いことの理由として挙げられることがあるが¹⁰⁾、この点については今回のアンケートでは全く出てこなかった。現代の台湾青年は、日本統治を直接知る世代やそのことを日本統治の負の面と結びつけて強調する教育を受けた世代と違って、台湾人がかつて受けていた差別をあまり意識せず、「差別をしなかった八田」の評価にはつながらないのかもしれない。

7. おわりに

今回実施したアンケート結果から得られる、台湾若者の八田與一の認識についての結論は以下のようなものである。

八田與一の知名度そのものは非常に高く、台湾では多くの人に知られていることが改めて確認できた。それに対し、八田の妻外代樹は一定程度知られているものの、あまり高くないことが確認できた。八田のイメージは台湾への貢献と結びついて概ね良い。多くの人が教科書からの知識の故か、嘉南大圳や烏山頭ダムと関連して記憶している。それ以外の八田の事績（台湾技術協会、桃園大圳）はあまり知られていない。八田を評価することが、日本の植民地統治を評価することには結びついていない。

はじめに述べたように今回のアンケート調査に不十分な点があることは認めるが、同じ主題

に対して世代、地域等の偏りのない調査が行われるまで、この結果を暫定的な「台湾人の八田與一観」として提示しておきたい。

参考文献

- 1)古川勝三：『改訂版 台湾を愛した日本人』，2009，創風社出版
- 2) 齋藤充功：『日台の架け橋・百年ダムを造った男』，2009，時事通信社
- 3)産経新聞「凜として」取材班：『凜として』，p.176，2005，産経新聞社
- 4)謝新發：『誰にも書けなかった台湾』，私家版，1979年，pp.57-58:
- 5)中川外司:随想 烏山頭水庫に魅入られた私,ダム技術, No. 74, p.46, 1 1992, ダム技術センター
- 6)李登輝・魏徳聖：KANO 精神は台湾の誇り，Voice, No. 446, pp. 18-31, 2015, PHP 研究所
- 7)国立編訳館主編，蔡易達・永山英樹訳：『台湾国民中学歴史教科書』，pp. 83-84, 2000, 雄山閣出版
- 8)清水美里：『帝国日本の「開発」と植民地台湾：嘉南大圳と日月潭発電所建設を中心に』，p. 24, 2015, 有資舎
- 9)胎中千鶴：『植民地台湾を語るということ 八田與一の「物語」を読み解く』，p. 40, 2007, 風響社
- 10)清水美里，前掲 8), pp. 247-248

要旨：八田與一の認識について、台湾の国立聯合大学で実施したアンケート調査を実施した。その結果によると、よく言われるように八田の知名度は高い。一方で妻の外代樹はそれほど高くないがある程度は知られている。また嘉南大圳や烏山頭ダム建設のことは知られており八田の印象は概して良いものの、八田についてそれ以上の知識を持っている学生は少数派である。八田と日本の植民地統治は結びつけて考えられていない。